「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「エルトゥールル号」って知ってますか？②～

・LAST 4hrs
しかしまだ油断できません。残り４時間でイラン領から脱出しなければいけない。時間との戦いです。

イラン国境を越えてトルコの領空に入ったのは、タイムリミット１時間 15 分前でした。
トルコ領空に入った瞬間。

「Welcome to Turkey, Ladies and Gentleman.」

そのアナウンスに歓声が上がりました。乗員と乗客が手と手を握り合い、お互い涙したそうです。
この時操縦桿を握ったトルコ航空機長アリ・オズデミルさんは、こう語っています。
「日本の人が好きです。親近感を持っています。
また同じ任務を頼まれれば喜んでやろうと仲間と決めています。」
なぜ、こんな危険な状況のなか、トルコの人たちは、日本人のために動いてくれたのでしょうか？
答えは・・・今から１３０年以上前の明治時代にありました。ビルレル大使は、こう言ったのです。
「トルコ人なら誰もが、エルトゥールル号の遭難の際に受けた恩義を知っています。
『ご恩返し』をしただけです。」
エルトゥールル号の遭難・・・・。それは 1890 年 9 月 16 日の夜に事件は起こりました。台風によりトルコ軍艦エルトゥールル号が和歌山県の串本沖で座礁、沈没してしまうのです。死者 587 人、生存者 69 人。
この時、串本の大島島民は不眠不休で生存者の救助、介護、また殉難者の遺体捜索、引き上げにあたり、日本全国からも多くの義金、物資が遭難将士のために寄せられました。村人たちは、冷え切った乗組員を温め、食料を提供、非常食としてとっておいたニワトリまで分け与えたそうです。
69 名の生存者は神戸で治療を受けた後、同年 10 月 5 日、比叡、金剛の 2 隻の日本海軍の軍艦により帰国の途につき、翌明治 24 年 1 月 2 日、無事イスタンブールに入港、トルコ国民の心からの感謝に迎えられました。
以下は、ビルレル大使の言葉です。

神戸救護病院にて手当てを受けた乗組員たち

「エルトゥールル号の遭難に際して、日本人がしてくださった
献身的な救助活動を、今のトルコ国民は忘れてはいません。
私も小学生の頃、歴史の教科書で学びました。
トルコの子どもたちもエルトゥールル号のことを知っています。
今の日本人が知らないだけです。
だから、テヘランで困っている日本人を助けようと、トルコ航空機が飛んだのです。」
『人生に悩んだら「日本史」に聞こう』ひすいこたろう＋白駒妃登美（祥伝社）より

実は、この話には後日談があります。
1998 年８月、トルコで大地震が発生しました。死者は 17,000 人を超え、被害も甚大。
この時、日本政府は人命救助・物資・医療など様々な分野でトルコの復興を支えました。
・・・**そう！**・・・この時、日本政府にトルコ支援を働きかけたのは、あの大混乱のテヘランからトルコ航空機に命がけで救出してもらった人々だったのです。
歴史を動かすのは、名を残すような特別な功績をあげた人たちだけはないのです。
懸命にトルコの人を助け、自分たちの非常食まで提供し、死者を悼み、心を込めて弔った無名の村人たちでもあるのです。次は・・・・そう・・・・私たちの番ですね。
・・・エルトゥールル号とテヘランの日本人救出を題材にした壮大な映画プロジェクトは、国家級のプロジェクト規模となり、映画『海難 1890』として完成。2015 年 12 月、全国公開となりました。
さぁ考査１週間前です。現在地を知るために全力で取り組もう！考査中の通心（信）はお休みします。